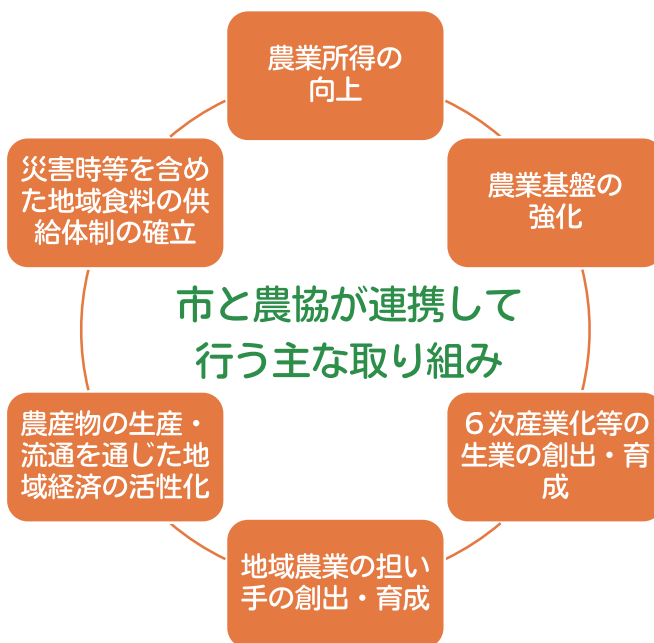


## 農業振興と活力ある地域社会構築を目指して 2農協と包括連携協定を締結

5月20日、当市がごしょつがる農業協同組合(斉藤勝徳代表理事組合長)およびつがるにしきた農業協同組合(泉谷利幸代表理事組合長)とそれぞれ包括連携協定を締結しました。

人口減少や少子高齢化による農業者の高齢化、担い手不足、農産物の価格低迷等に直面する中、当市の基幹産業である農業の振興と地域活性化を図ることを目的として、協定を締結することとなりました。

協定締結式では佐々木市長が「農協と連携しながら農業政策を進め、農産物のブランド化を図りたい」と話しました。斉藤組合長は「新しく農業を始めたいと考えている方が気軽に相談できるような窓口を連携しながら作れば」と、泉谷組合長は「産直施設への出荷・販売を行い、農業者が今まで以上に活躍できるようにしたい」と話しました。



協定を締結した市長と斉藤組合長



協定を締結した市長と泉谷組合長

### 地域の とりくみ

## 旧十川漁業協同組合が“イワナ”や“ヤマメ”を放流

旧十川漁業協同組合(石戸谷秀一代表理事組合長)は6月10日、金木川でイワナの放流を行いました。

呼びかけに応じて協力してくれた企業の方々を含め関係者ら14名が参加し、パケツに入ったイワナの稚魚5,000匹をゆっくりと放しました。

同組合は自然保護への願いをこめて、川の資源を保護し育成するため、毎年6月頃にイワナやヤマメの放流を行っています。

5月20日に飯詰ふれあいパーク付近の飯詰川で行ったヤマメの放流では、就労継続支援B型事業所「拓」を運営する一般社団法人謙心会も参加し、利用者の方々が放流を体験しました。

同事業所サービス管理責任者の島村霞さんは「コロナ禍であまり出歩けない中、放流を行っていることを知り参加をお願いした。利用者の中にはヤマメの稚魚を見るのが初めての方もいて、とても喜んでいました。この活動について、もっと多くの方々に知ってもらいた

い」と笑顔で話しました。

石戸谷組合長は「誰かがやらないといけない。密漁などを防止し、ルールを引き継いでいくことで、川と川の資源を守っていききたい」と話しました。

### 問い合わせ先

旧十川漁業協同組合 TEL090-4887-7745



イワナの稚魚を放流する関係者